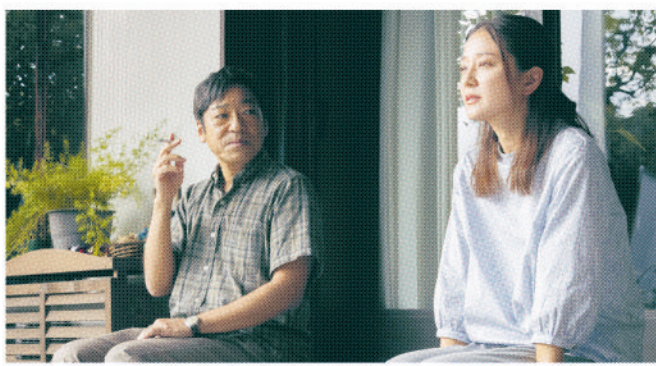


映画 宮松と山下

なぜ記憶をなくした男がエキストラをし続けるのか?

カンヌ国際映画祭短編部門に過去2作品が正式招待された監督集団「5月」の長編デビュー作 毎日名もなき人物を演じ死に続ける宮松。ミステリアスな彼の過去への心の旅が始まる



自身の日常の描写なのか、彼がエキストラの仕事をしているシーンなのか途中から分からなくなるようなところがあります。この混乱が実に心地良かった。小説で一番面白いのはフィクションか現実か分からなくなる瞬間なのですが、それを映像表現で見事にやり遂げていて驚きました。

宮松の顔にも感銘させられます。エキストラとはいえない人間なので、カットがかかって現実に戻った時、多少はリラックスした表情になってもおかしくない。でも宮松は自身の日常も、エキストラとして演じている時もほとんど同じ顔。なぜかと考え、彼は過去の記憶がないからだと気づきました。自分が何者か分からないので、日常においても宮松を演じているのだなと。では宮松がエキストラを生業としているのはなぜか。セリフのある役には何らかの設定があります。でもエキストラにはない。つまり、過去がないわけですね。しかも宮松はすぐに死ぬ。役ばかりなので未来もない。過去と未来がなく、現在に閉じ込められているのがエキストラであり、宮松そのものなのだとこのことを表しているのでしょう。

現実がフィクションか? その混乱が心地いい

監督集団「5月」だからできた映画

「宮松と山下」というタイトルがいいですね。しかも香川照之さんが端役を演じるという。この2点に好奇心を刺激され、観させていただきました。

物語が静かに進むにつれて宮松の過去を知る人物たちが登場しますが、いずれにしてもセリフが少なく、説明もありません。頼りになるのは映像だけ。それだけに彼らの感情の起伏を一瞬

香川照之の表情が実にエモーショナル

見どころはもちろん香川照之の静かな演技。実に「エモい」(笑)。宮松を抱えるドラマをあたかもビーム光線でご覧に送ってくるような、香川さんの目の表情と演技力の確かさがよかったです。エキストラを演じている時の死に方もいい。斬られた時も撃たれた時も精いっぱい、本気で「死ぬ」んです。そ

「本作は『感じる』映画。小説を読む楽しさに似ています」



この作品はいい意味で文学的だと思えます。ぼく自身、小説を読む感覚で楽しめました。まずは「感じて」みてください。感想がすぐに出てこなくてもいい。観終えた後に心の中で感じたものをゆっくり言葉にすることをオススメします。いろいろな考えたり思いついたり分析したくなる作品です。ぼくは昔読んだあるフランスの小説を思い出しました。(談)



photo by Masanori Kaneshita

サンセバスチャン国際映画祭の上映では、劇場を埋め尽くした600もの眼差しが、この映画を体験しました。上映中の『宮松と山下』は、いたるところで観客におおと声を上げさせるほど驚かす一方で、私たち監督でさえ思いもよらぬところで笑いを生んでいました。そして主人公・宮松を演じる香川照之さんの存在感と演技は、世界の方に、とんでもない俳優が日本にいることを知らしめました。——サンセバスチャン国際映画祭での上映時コメントから

監督集団「5月」

「新しい手法が生む新しい映像体験」を標榜(ひょうぼう)し、表現の開拓を目指して2020年に発足した映画・映像の監督集団。数多くの名作CMや教育番組「ピタゴラスイッチ」を手がけてきた東京藝術大学名誉教授・佐藤雅彦と、同大学院の佐藤雅彦研究室で学んだ後、NHKでドラマ演出を多数行ってきた関友太郎、多岐にわたるメディアデザインを手がける平瀬謙太郎の3人からなる。

作家 高橋 源一郎さん

たかはしげんいちろう/1951年広島県生まれ。81年「さようなら、ギャングたち」で群像新長編小説賞の優秀作に選ばれデビュー。「優雅で感傷的な日本野球」で三島由紀夫賞、「日本文学盛衰史」で伊藤整文学賞を受賞。著書多数。最新作に「居場所がないのがつらいです みんなのなやみ ぼくのこたえ」(毎日新聞出版)、「ぼくらの戦争なんだぜ」(朝日新書)など。

整頓されたシナリオ

毎日数ページだけ渡されるシナリオ

シヨートホープ

一服するとなにかが脳裏をよぎる

ビール

一日の疲れを癒やす至福の一杯が……!?

丸定規

「枠を埋めていく作業が好き」

STORY

エキストラ俳優の宮松は、ある時は時代劇で弓矢で射られ、またある時はヤクザの一人として銃撃されるなど、来る日も来る日も劇中で殺され続けている。そんな彼には過去の記憶がなく、自分が何者かを好み、どこで何をしていたか一切思い出せない。それでも宮松は、毎日数ページだけ渡される「主人公ではない人生」を演じ続けるのだった……。

本日公開!

新宿武蔵野館 03-3354-5670
11/18(金)~24(木) 10:00 12:45 14:55 19:05
11/19(土)のみ 10:00 12:25 14:35 18:35
舞台挨拶決定! 11/19(土)
・10:00の回上映
・12:25の回上映前
場所: 新宿武蔵野館
登場予定者(他部): 関友太郎、平瀬謙太郎、佐藤雅彦

渋谷シネクイント 03-3477-5905
11/18(金)~24(木) 9:20 13:15 16:20 19:20
11/23(水)~104 10:15 13:30 16:50 20:55
シネスイッチ銀座 03-3561-0707
11/18(金)~24(木) 16:00

イオンシネマ板橋 03-3937-1551
ムービル 045-311-6226
イオンシネマ座間 046-240-7904

イオンシネマ海老名 046-233-4444
小田原 コロナシネマワールド 0465-45-5688
千葉劇場 043-227-4591

MOVIX 柏の葉 050-6865-3401
USシネマ 千葉ニュータウン 0476-48-2126
イオンシネマ浦和美術館 048-812-2055

MOVIX さいたま 050-6865-4351
MOVIX 三郷 050-6861-4255
USシネマつくば 029-839-5255

シネマテークたかさき 027-325-1744
MOVIX 宇都宮 050-6865-3235

kino cinema 立川高島屋S.C.館 042-512-5162
京城あまや座 029-212-7531
静岡シネプラザサントムーン 055-963-1800

※ 記載以外の上映時間は各劇場にお問い合わせください。

宮松と山下

斬新!!
今年の映画祭において、最も驚かされた映画。
なかなかお目にかかれぬ独特な作品だ。
—ホセ・ルイス・レボルディノス (サンセバスチャン国際映画祭ディレクター・ジェネラル)

端役専門のエキストラ俳優、宮松。彼には彼の知らない「もうひとりの自分」がいた。

エキストラの話、とのんびり構えていたら、途中で『!!!』となり一気に引き込まれた。(45歳・女性) ※一般試写会アンケートより

第70回 サンセバスチャン国際映画祭 New Directors部門 正式招待作品

第59回 台北金馬影展 Windows on Asia部門 正式招待作品
第30回 ハンブルク映画祭 Asia Express部門 正式招待作品

香川照之 津田寛治 尾美としのり 中越典子 野波麻帆 大鶴義丹 諏訪太朗 尾上賢之 黒田大輔 脚本・監督・編集: 関友太郎 平瀬謙太郎 佐藤雅彦